

コード	205031501
記入日:	H22.6.11

課コード	121
課名	消防本部
課長名	窄口雅昭
担当者	山田明人

## 事務事業途中評価表

作成年度	平成 22 年度
------	----------

評価対象事業名称	装備品維持管理事業
----------	-----------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 21 年度 ~ 平成 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け			
政策コード	2	政策名称	安全、便利、快適な生活環境づくり	款コード	9		
施策コード	205	施策名称	安全を実現できる体制づくり	項コード	1		
基本事業コード	20503	基本事業名称	消防団組織と消防施設の充実	目コード	1		
事務事業コード	2050315	事務事業名称	資機材維持管理事業費	細目コード	932		
関連計画				法令・条例規則等			

**計画(PLAN)** ※単年度繰返事業については、全体欄を\*\*\*\*\*とする。

対象:誰、何を対象にしているのか		対象指標:対象の大きさを表す指標					
(対象1) 消防ポンプ自動車及び救急自動車等 (対象2)		(対象指標1) 7台 (対象指標2)					
事業の概要:具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標:事務事業の活動量を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
*****	・車検7台、自動車保険料、資機材の維持管理 ・事業内容 消耗品・修繕料・手数料・保険料・委託料・公課費	***** ① 車検	***** 7台	***** 100%	***** 車検7台÷計画7台	***** 平成21年度	
		(達成率分析)	車検予定7台、全車車検することができた。				
		***** ② 車両整備回数	***** 52回	***** 100%	***** 車両等整備回数52回÷計画数52回	***** 平成21年度	
		(達成率分析)	車両及び資機材の整備52回、計画とおりに実施することができた。				
目的:何をしたいのか		成果指標:目的の達成度を表す指標・達成率 (上段:全体、下段:評価年度)					
町民の生命、身体及び財産を守るために、消防資機材は消防活動上不可欠なものであり、活動中の隊員の安全を守るためにも、重要な装備であるため、維持管理を行うものである。		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)	
		***** ① 使用可能日数	***** 365日	***** 100%	***** 使用可能日数365日÷年間日数365日	***** 平成21年度	
		(達成率分析)	車検や車両整備により、所有車7台の全てを年間を通して、使用可能な状態で維持することができた。				
		***** ②	*****	*****	*****	*****	
		(達成率分析)					

**実施(DO)** ※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		平成20年度以前	平成21年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画	
活動指標	① 台	36	36	29	7	7					
	② 回	263	263	211	52	52					
成果指標	① 日	365	365	365	365	365					
	②										
総事業費C(A+B)	千円	20,265	19,986	14,242	6,023	5,744					
直接事業費A	千円	13,265	12,986	8,642	4,623	4,344					
人件費B	千円	7,000	7,000	5,600	1,400	1,400					
内訳	従事職員数	人	1.0	1.0	0.8	0.2	0.2				
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円									
	県補助金	千円									
	起債	千円									
	その他	千円									
一般財源	千円	20,265	19,986	14,242	6,023	5,744					

評価(CHECK) ※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	町民生活の安全確保は、自治体の責務であるため必要である。
	時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	消防装備の維持修理は、消火活動上不可欠である。
	事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	町民の生命身体及び財産を守るために必要であり適切である。
有効性	現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	装備品の充実により、町民の被害を最小限に維持している。
	成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	装備品の充実により、町民の被害を最小限に維持している。
	事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	町民の生命身体を守ることができない。
	類似事業との整理統合はできませんか。	できる ●できない	理由	類似事業はない。
効率性	直接事業費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	町民の生命身体及び財産を守ることができない恐れがあるため、削減することはできない。
	人件費を削減することはできませんか。	できる ●できない	理由	必要最小限の人件費であり、削減することはできない。
	受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	受益者負担はない。

改善(ACTION)

改善策	1次評価	妥当性	町民の生命身体及び財産を守るためには、継続していく必要があり、現在のところ計画を見直す必要はない。
		有効性	計画的に装備品を充実することにより、町民及び消防隊員の安全を確保できる。
		効率性	消防活動上、装備品維持管理は、必要不可欠なものであり、現在のところ計画を見直す必要はない。
		課題に向けた改善策	現状維持に努める。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり
		有効性	装備品の維持・管理は適正に行い、計画的な整備を行うこと。
		効率性	計画的な整備を行うことにより経費の節減を図ること。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次		1次	2次	3次	
	●			このまま事業を継続				類似事業と整理統合
		●		事業内容を見直して事業を継続				事業の休止
				事業費を見直して事業を継続				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。